



東地申第4号 駅で働く社員の命を守るための申し入れを提出しました！

JR東労組東京地本は、2023年9月に行った「東地申第2号・緊急申し入れ」での議論内容について、系統を超えて組合員と共有し、再度議論を行ってきました。

申2号交渉の場では、首都圏本部内で連続して発生した触車に繋がる事象について、現状における安全に対する危機意識については労使で一致することができたと考えています。

しかし、五反田駅構内で発生した事象について、当日の映像を一部の社員のみが閲覧している実態や、融合と連携の中で多客対応の為に他系統から駅へ応援に赴く社員に対して、具体的な指導がされていないなど、既に教育に差が出ており、首都圏本部が抱く危機意識が各現業機関にまで浸透していない実態にあります。

今、必要なことは首都圏本部と現業機関の危機意識を一致させ、効果的な事故防止対策を現場社員の声をもとに講じることです。ヒューマンファクター研究所・黒田勲元所長の言葉にある「安全などというものは、そもそもこの世の中には存在しません。常に存在するのは危険です。この危険をいかに的確に予測し、確実に防止することが安全です。」という認識のもと、JR東日本グループ全体の安全のレベルアップを図るために、下記の内容で申し入れをしました。

地域やお客さまだけでなく、働く組合員、社員からも親しみ愛される職場を労使で作りに上げる施策とするために、労働者側から安全・健康・ゆとり・働きがいを守る新しい職場を目指し、東京地本は団体交渉に臨みます。

【申し入れ内容】

1. 五反田駅構内で発生した、列車進来直前に線路内落し物拾得作業を行った事象について、事象の映像を全社員で視聴し、各箇所での活かした教育として活用する教育体制を確立すること。
2. 線路内落し物拾得作業について、時間帯、曜日、天候、多客期などの作業環境に合わせた具体的取扱いについて、現場社員を入れて対策とマニュアルのあり方を検討すること。
3. 線路内落し物拾得作業について、見通しの悪い箇所は抑止を前提とすること。
4. 融合と連携ならびに、繁忙期、多客期など、他系統の社員が駅への応援体制を行う実態を踏まえ、上記教育を他系統社員にも共有すること。

以上

職場の声をもとに施策の内容を明らかにしていこう！！